



特別展  
**恩地 孝四郎展**  
Onchi Koshiro

抒情とモダン 版に重なるころ

版画界の巨星  
日本における抽象  
表現のパイオニア  
海外からの里帰り作品を含  
む約400点を一挙紹介！



2016年 4月29日 **金** **祝** - 6月12日 **日**

プレスプレビュー（記者向け内覧会）

4月28日（木曜日）14:00～17:00

2階展示室入口にて受付

開会に先立って、プレス関係者を対象にプレスプレビューを実施いたします。ぜひ、この機会を利用してご取材いただき、恩地孝四郎展の魅力を発信していただきますようお願い申し上げます。

和歌山県立近代美術館

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690 FAX 073-436-1337

E-MAIL [moma\\_w@future.ocn.ne.jp](mailto:moma_w@future.ocn.ne.jp) WEB <http://www.momaw.jp/>

# おんち こうしろう 恩地孝四郎展 抒情とモダン 版に重なるころ

2016年4月29日（金・祝）～6月12日（日）

近代日本における版画界の巨星であり、また抽象表現のパイオニアとして知られる恩地孝四郎（1891-1955）の回顧展を開催します。

1891年、恩地孝四郎は東京で、現在の和歌山県橋本市出身の父のもとに生まれました。竹久夢二との出会いをきっかけに画家を志した恩地は東京美術学校に入学、1914年に同校の田中恭吉・藤森静雄と詩と版画の雑誌『月映』を刊行します。同誌で発表した1915年の《抒情『あかるい時』》等は、日本における抽象表現の先駆けとなりました。1920～30年代には時代と呼応しつつ様々な版表現の可能性を追求し、戦後になると専ら抽象版画の連作を発表します。特に、作者の心にわき起こる感情をかたちにした「抒情」シリーズは、一貫して画業の根底をなすものでした。版画表現の近代化に向けて偉大な足跡を残した恩地の自由な創作姿勢は、後世の版画家たちにも多大な影響をあたえています。

本展では版画を中心に、油彩、素描、写真、ブックデザインなど、約400点を一挙紹介いたします。



1. 《抒情『あかるい時』》1915年 木版、紙  
東京国立近代美術館

## 本展覧会のポイント

### ① 約20年ぶりの本格的な回顧展

1994～95年にかけて当館などで「恩地孝四郎 色と形の詩人」展が開催されて以来の回顧展です。2014年の『月映』展（当館、宇都宮美術館、愛知県美術館、東京ステーションギャラリー）などによって、恩地への関心も高まりつつある中、改めてその画業の全貌に光を当てます。

### ② 海外からの里帰り作品も展示

今回特に注目されるのは、海外からの里帰り作品です。恩地と交流のあったアメリカ人のGHQ関係者が彼の作品を熱心に収集したため、現在、戦後作の多くは海外へ渡っています。本展では、ボストン美術館、ホノルル美術館、大英博物館所蔵の重要作52点が特別に出品されます。

### ③ 約400点にのぼる多彩な作品を紹介

版画243点を中心に、油彩、素描、写真、ブックデザインなど、その領域横断的な仕事も併せて紹介します。恩地は時代に先駆けたマルチクリエイターともいえるでしょう。国内外から集めた多彩な作品は約400点にのぼります。

### ④ 和歌山が、展覧会の最終会場に

当展は既に今年の1～2月に東京国立近代美術館で開催され話題を集めた展覧会で、巡回先は当館のみです。

日本を代表する版画家の作品を一堂にご覧いただける数十年に  
1度の貴重な機会となります。ぜひご注目ください。

## 関連事業

- **記念講演会** ※いずれも 14:00~15:30 2階ホール（申込不要、聴講無料）  
5月8日（日）「抽象への方途 恩地孝四郎の版画」 松本透（まつもととおる・東京国立近代美術館特任研究員）  
5月14日（土）「恩地孝四郎の実験精神：創作版画から現代美術へ」 桑原規子（くわはらのりこ・聖徳大学教授）
- **フロアレクチャー（学芸員による展示解説）**  
5月3日（火・祝）、5月22日（日）、6月5日（日） ※いずれも 14:00 より 2階展示室にて（申込不要、要観覧券）
- **製本工芸の展示「本の美術：ルリユールへの誘い」**  
4月29日（金・祝）～6月12日（日） 1階リーディングコーナー（観覧無料）  
主催：和歌山県立近代美術館、東京製本倶楽部
- **ワークショップ「フランス装の本をつくる」藤井敬子（ふじいけいこ・東京製本倶楽部）**  
5月29日（日） 13:00～16:00 2階ホール（対象：中学生以上、要申込 [先着20名]、参加費 1000円）  
※ 詳しくは当館へお問い合わせください。

## 開催概要

会場	和歌山県立近代美術館 2階展示室
主催	和歌山県立近代美術館、東京国立近代美術館、産経新聞社
会期	2016年4月29日（金・祝）～6月12日（日）
開館時間	9時30分～17時（入場は16時30分まで）
休館日	月曜日
観覧料	一般 700（560）円、大学生 400（320）円（ ）内は20名以上の団体料金 *高校生以下、65歳以上、障がい者、県内に在学中の外国人留学生は無料 *5月28日（土）は「紀陽文化財団の日」として大学生無料

### 恩地孝四郎（1891-1955）



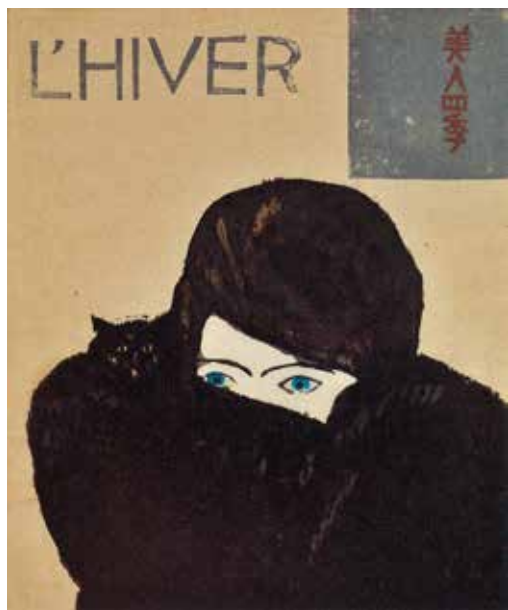
2. 《海の見える窓》 1940 木版、紙 養清堂画廊

- 1891年 7月2日、東京府南豊島郡淀橋町元柏木村（現在の新宿区北新宿）に生まれる。父の轍は現在の和歌山県橋本市出身。
- 1909年 独逸学協会学校中学を卒業。竹久夢二の影響を受け、画家を目指す。
- 1910年 東京美術学校予備科（西洋画科志望）に入学。
- 1914年 田中恭吉、藤森静雄とともに詩と版画の雑誌『月映』を創刊。
- 1915年 『月映』にて日本で最初の抽象表現《抒情『あかるい時』》を発表。東京美術学校退学。
- 1916年 小林のぶと結婚。
- 1918年 日本創作版画協会の創立に加わる。
- 1931年 日本創作版画協会が発展解消して日本版画協会となり、同会会員となる。
- 1951年 第一回サンパウロ・ビエンナーレ展に出品。
- 1952年 第二回ルガノ国際版画展に出品。サンフランシスコでの現代日本美術展に出品。
- 1954年 ニューヨークでの第十八回アメリカ抽象美術展に出品。
- 1955年 6月3日、心臓麻痺のため死去。

主な出品作品

掲載用画像については広報担当にお問合せ下さい。

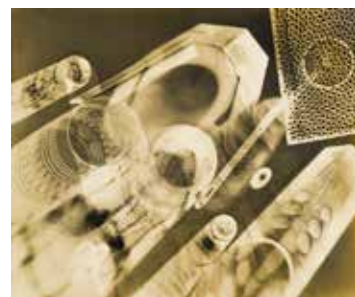
※文字のせ、トリミング等のご遠慮ください。



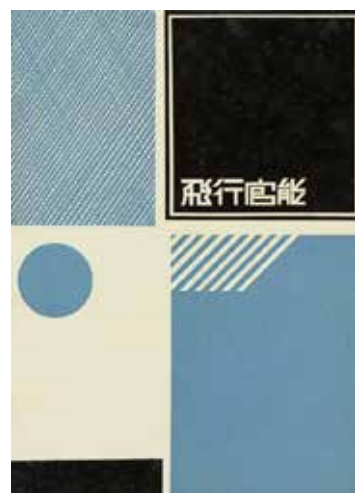
3.



4.



7.



8.



5.



6.

表紙：《フォルムNo.16》1952年 マルチブロック、紙  
ドゥフファミリー美術館 / 1.《抒情『あかるい時』》1915  
年 木版、紙 東京国立近代美術館 / 2.《海の見え  
る窓》1940 木版、紙 養清堂画廊 / 3.《美人四季  
冬》1927年 木版、紙 京都国立近代美術館  
/ 4.《ダイビング》1933年頃 木版、紙 横浜美術  
館（北岡文雄氏寄贈）[5月22日までの展示] / 5.《音  
楽作品による抒情 ドビュッシー「金色の魚」》1936  
年 木版、紙 養清堂画廊 / 6.《オブジェNo.4》  
1954年 実物版、紙 ホノルル美術館 Honolulu  
Museum of Art, Purchase, 1976 (16708) (C)  
Honolulu Museum of Art / 7. [フォトグラム、ガラス] 制  
作年不詳 セラチン・シルバー・プリント 東京国立近  
代美術館 / 8.『飛行官能』1934年 書籍 個人蔵

出品点数 計392点（うち海外所蔵品52点）  
版画243点 / 油彩11点 / 水彩・素描25点 / 写真20点 / ブックデザイン79点 / 資料14点  
※ 会期中、一部作品の展示替えを行います。

【同時開催】

コレクション展 2016-春

特集展示 謄写印刷工房から一印刷と美術のはざままで

【会期】開催中 - 5月29日（日）

【会場】1階展示室

「コレクション展 2016-春」では、恩地が関わっていた『書窓』や「一木会」の作品などを展示します。

コレクション展 2016-夏

特集展示 ドローイング水彩・パステル・紙の世界

【会期】6月7日（火）- 9月4日（日）

【会場】1階展示室

和歌山県立近代美術館

学芸担当：奥村一郎・藤本真名美 広報担当：島

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690（代表）

FAX 073-436-1337

E-MAIL moma\_w@future.ocn.ne.jp

WEB <http://www.momaw.jp/>